

# 輸血・細胞治療センター

## 1. 概要

輸血・細胞治療センターでは、2019年10月に自動輸血検査装置が更新された。血液型検査・不規則抗体スクリーニングに加え、交差適合試験および直接クームス試験も実施可能となり、検査の効率化や検査結果の精度向上につながった。また、装置を2台導入することでトラブル時のバックアップ体制の充実も図った。

2020年は、迅速フィブリノゲン測定機器の導入を行う。フィブリノゲン値はクリオプレシピテート投与のタイミング決定には非常に重要であり、今回の機器導入で報告時間が短縮されることにより、クリオプレシピテートの適正使用につながると考える。

今後も院内の輸血療法が安全かつ適正に行われるよう管理していく。

(センター長 倉橋 信悟)

## 2. 活動報告

### (1) 定期委員会

輸血療法委員会開催 (2か月毎予定) \* 6回実施

### (2) 輸血療法院内監査

輸血療法院内監査実施 \* 2回実施

臨時 輸血療法院内監査実施 \* 1回実施

### (3) センター業務実績

#### ①輸血関連検査件数

検査項目	総件数(件)	前年比
血液型	21,607	1.09
不規則抗体スクリーニング	15,418	1.06
交差適合試験	6,079	1.17

#### ②血液製剤使用状況

製剤種	総単位数(単位)	前年比
赤血球液 (RBC)	12,151	1.17
新鮮凍結血漿 (FFP)	3,924	0.97
濃厚血小板 (PC)	21,385	1.25

#### ③アルブミン (ALB) 製剤使用状況

製剤種	総本数(本数)	前年比
ALB 25% 50mL	1,814	1.60
ALB 5% 250mL	1,377	1.80

\* ALB 使用単位数 : 13,296 単位

\* ALB/RBC=1.094 管理料 I 算定基準 : 2 未満

④製剤廃棄率

製剤種	廃棄率(%)	前年比
赤血球液 (RBC)	0.10	0.30
新鮮凍結血漿 (FFP)	2.97	4.30
濃厚血小板 (PC)	0.28	0.64

⑤副作用集計報告

製剤種	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球 (RBC)	76	44
新鮮凍結血漿 (FFP)	66	23
濃厚血小板 (PC)	125	63